

## ◇ ◇ 第二種研究会開催案内 ◇ ◇

### ●第1回超高速光エレクトロニクス研究会

委員長 三沢和彦 (東京農工大)

日時 平成25年4月13日(土) 13:00~17:35

会場 東京農工大学小金井キャンパス新1号館グリーンホール  
(小金井市中町2-24-16. JR中央線:東小金井駅下車, 徒歩10分. [http://www.tuat.ac.jp/basic\\_information/access/index.html](http://www.tuat.ac.jp/basic_information/access/index.html))

テーマ「超高速光エレクトロニクスとナノ材料科学の融合研究推進に向けて」

講演プログラム

1. [招待講演] 超高速大容量光伝送技術の現状と将来展望  
中沢正隆 (東北大)
2. [招待講演] 光の螺旋性とカイラル構造体  
尾松孝茂 (千葉大)
3. [招待講演] 高エネルギー密度状態の研究展開—ホロー原子固体から warm dense matter まで—  
米田仁紀 (電通大)
4. [招待講演] 超高速光電子分光: 気相から液相へ  
鈴木俊法 (京大)
5. [招待講演] 時空間モルフォロジー制御による能動メゾ光学  
五神 真 (東大)
6. [招待講演] 窒化物半導体の高品質厚膜成長—理論的解析から成長まで—  
額野明伯 (東京農工大)

参加資格 どなたでも参加できます。

参加費 無料

交流会 研究会終了後(18:00~19:45), 研究交流会(会費:2,000円を予定)を小金井キャンパス内の140周年記念会館(エリプス)3Fにて行いますので, 御参加下さい。

【問合先】 第1回研究会現地世話人

三沢和彦 (東京農工大)

TEL & FAX [042] 388-7485

E-mail: kmisawa@cc.tuat.ac.jp

芦原 聡 (東京農工大)

TEL & FAX [042] 388-7536

E-mail: ashihara@cc.tuat.ac.jp

【事前申込先】 電子メール [photon-nano@femto.tuat.ac.jp](mailto:photon-nano@femto.tuat.ac.jp) まで,

①氏名, ②所属, ③連絡先 (E-mail と電話番号), ④交流会への参加有無を御記入の上, 4月5日(金)までにお申し込み下さい。当日の参加申し込みも受け付けますが, 参加者数等の把握のため, 事前の申し込みをお願い致します。お預かりした個人情報情報はシンポジウム運営にのみ使用します。

主催 超高速光エレクトロニクス時限研究専門委員会

東京農工大学光ナノ科学融合研究リング

後援 東京農工大学研究戦略センター

### ●エレクトロニクスシミュレーション・テラヘルツ応用システムワークショップ

日時 平成25年5月9日(木) 10:00~17:00

会場 NTT厚木研究開発センタ(厚木市森の里若宮3-1. <http://www.ntt.co.jp/sclab/maps/a.html>)

テーマ「周波数利用帯の拡大・効率化で拓かれる新たな世界」

### 概要

エレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会では, 大学間及び産学間の連携, 協調を通してシミュレーション技術の検討, 開発及び統合を追求するとともに, 開発設計現場や大学教育におけるシミュレーションの適切な普及等を目的とした広範囲な活動をしてきております。一方, テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会では, テラヘルツ帯(0.1~100 THz)を利用した分析・センシング技術等, 新たな周波数帯を利用したアプリケーション及び実現技術が注目を浴びる中, 更なるテラヘルツ帯応用に向け, デバイス技術, システム技術の研究開発の普及・促進に向けた活動をしています。

今回, エレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会として第2回目となるワークショップでは, テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会との共催により, 電磁波応用という観点から「周波数利用帯の拡大」, 「周波数利用の効率化」について議論を深めるとともに, 計算機性能向上, NWクラウド化により可能となった大規模シミュレーション技術の適用という観点から「シミュレーション技術アプリケーション応用」に関して議論を深めたいと思っています。また, 本ワークショップでは, 「シミュレータベンダ講演の部」としてベンダ, 大学等によるシミュレータに関するショート講演を企画するとともに「ベンダシミュレータ展示」を予定しております。更に, ワorkshop参加者を対象としたNTT厚木研究開発センタ展示ホールの公開も計画しています。この機会に皆様お誘い合せの上, 是非御参加下さいませよう御案内申し上げます。

プログラム 後日, エレクトロニクスシミュレーション研究会ホームページ (<http://www.ieice.org/es/est/workshop.html>) 及びテラヘルツ応用システム研究会ホームページ (<http://www.ieice.org/es/thz/>) にて告知します。

参加費 ワorkshop参加費 3,000円(資料代含む)

参加申込方法 当日参加も受け付けますが, 会場準備のため, 事前にE-mailにての参加申込みに御協力下さい。なお, 申込先についてはEST研究会ホームページにて後日掲載予定です。

【問合先】 EST研究会ワークショップ担当幹事

木村秀明 (NTTアクセス・ビジネスシステム研究所)

TEL [046] 859-5280, FAX [046] 859-5514

E-mail: kimura.hideaki@lab.ntt.co.jp

主催 エレクトロニクスシミュレーション研究専門委員会

テラヘルツ応用システム時限研究専門委員会

### ●第1回集積光デバイスと応用技術研究会

委員長 粕川秋彦 (古河電工) 副委員長 横井秀樹 (芝浦工大)

日時 平成25年5月15日(水) 13:30~17:30(予定)

受付開始時間 13:10~

会場 古河電気工業横浜研究所3階研修室(横浜市西区岡野2-4-3. <http://www.furukawa.co.jp/kaisya/siten/yokoken.htm>)

テーマ「デジタルコヒーレント通信用集積デバイスとその応用」  
第1回研究会を下記の内容で開催します。

100 Gbit/sの高速デジタルコヒーレント通信の導入が進んでいます。第1回集積光デバイスと応用技術研究会では, コヒーレント通信の最新動向, キー光コンポーネント, デジタル信号処理, Beyond 100 Gbit/sに向けた集積光技術に関する講演を行います。システム側からの要望も交え, 活発な議論ができますよう, 多数の方々の御参加をお待ちしております。

プログラム (予定)

1. [招待講演] 光通信システムの第3世代技術：デジタルコヒーレント通信 富沢将人 (NTT)
2. [招待講演] ナイキスト波長多重伝送システムの研究動向 五十嵐浩司・釣谷剛宏・森田逸郎 (KDDI 研)
3. [招待講演] デジタルコヒーレント通信用波長可変レーザ 上坂勝己 (住友電工)
4. [招待講演] コヒーレントレーザの開発動向 仲尾拓弥・山内康寛・柴田康平・古川博之 (富士通オプティカルコンポネント)
5. [招待講演] 光伝送システムのための高速デジタル信号処理回路 山崎悦史 (NTT)
6. [招待講演] 空間多重伝送用光ファイバ技術 今村勝徳・杉崎隆一 (古河電工)

#### 7. [フリーディスカッション]

参加資格 特に関りません

参加申込 研究会開催当日、会場にて受け付けます (事前申し込み不要)

参加費 一般5,000円, 学生1,000円

#### 【研究会に関する問合せ】 [第1回研究会担当委員]

向原智一 (古河電工)

TEL [0436] 42-1771

E-mail: tmuka@yokoken.furukawa.co.jp

#### 【その他の研究会一般に関する問合せ】 [幹事]

向原智一 (古河電工)

TEL [0436] 42-1771

E-mail: tmuka@yokoken.furukawa.co.jp

山下兼一 (京都工繊大)

TEL [075] 724-7423

E-mail: yamasita@kit.ac.jp

主催 集積光デバイスと応用技術時限研究専門委員会

### ●ネットワークシミュレーションスクール

実行委員長 漆谷重雄 (NII)

日程 平成25年5月15日(水) 13:00~23:00

16日(木) 9:00~15:00 (予定)

会場 総合研究大学院大学 (三浦郡葉山町)

内容

1. ns3のインストール (ノートPCを御持参頂きます)
2. 基本的な使い方
3. トランスポート層シミュレーションの演習
4. ns2との違いと既存シミュレーションの移植
5. 質疑応答

講師 長谷川 剛 (阪大)

概要

情報通信分野の研究を進める上で、ネットワークシミュレーションは不可欠な手段ですが、本質的でない作業に時間を取られることも多いかと思えます。また、多くの研究者が同じ問題で苦心しているケースも散見されます。そこでネットワークシステム研究会では、ネットワークシミュレーションに関する知識の共有と相互の意見交換のため、学生及び若手研究者を主な対象者として、汎用シミュレータ ns3 のスクールを1泊2日の合宿形式で開催しますので、是非御参加下さい。

#### 【参加申込】

参加対象者 学生 (学部4年次生以上を想定) 及び若手研究者

募集定員 30名程度 (原則として先着順)

申込締切 4月22日(月)

参加費 学生15,000円/一般20,000円 (宿泊費・夕食代含む)

申込 URL <http://www.ieice.org/cs/ns/jpn/nss/index.html>

#### 【問合せ先】

木下和彦 (阪大)

E-mail: ns-secretariat@mail.ieice.org

主催 ネットワークシステム研究専門委員会

### ●アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ (第46回) 「究める GTD」

実行委員長 宇野 亨 (東京農工大)

アンテナ・伝播研究専門委員会では、関連する研究専門委員会と連携して、1994年度から第二種研究会として「アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ」を開催して参りました。これは、アンテナ・伝播研究者や技術者を主たる対象に、設計・解析力の向上を図ることを目的とするもので、これまでにモーメント法及びFDTD法によるアンテナ解析、アレーアンテナ、OFDMアレー信号処理及び高分解能到来波推定法、移動通信における多重波伝搬理論、人体ファントムとアンテナ評価技術、無線タグ用アンテナ設計、メタマテリアルの基礎などをテーマに、45回のワークショップを企画し好評を頂いております。

今回の第46回ワークショップでは、開口面アンテナの設計や電波伝搬などに利用されている幾何光学的回折理論 (GTD) の基礎をテーマとします。本講義は、幾何光学 (GO) から始まり、物理光学 (PO) との違い、GTDの基礎であるエッジ回折波や表面波回折波を説明し、都市伝搬推定などの応用事例まで紹介致します。GTDについて、その考え方を詳細に解説することで、これらの基礎を習得することを目的とします。

講師 白井 宏 (中大)

講義内容

1. 漸近展開
2. 幾何光学 (GO)
3. 物理光学 (PO)
4. 幾何光学的回折理論 (エッジ回折)
5. 幾何光学的回折理論 (表面回折)
6. GTDの問題点とその拡張
7. GTDの応用例

上記の講習内容は、若干変更することもございますので御了承下さい。なお、テキストは受講者に約3週間前に配布され、予習して頂くことを前提としています。

日時 平成25年6月17日(月) 9:30~17:00

会場 東京工業大学田町キャンパス キャンパス・イノベーションセンター国際会議室 (港区芝浦3-3-6, JR山手線/京浜東北線:田町駅 徒歩1分。 <http://www.titech.ac.jp/about/campus/t.html>)

受講定員 100名

受講料 (テキスト代金を含む)

一般/会員15,000円, 非会員25,000円

学生/会員5,000円, 非会員10,000円

申し込み受け付け後、事務局から受講受付番号と受講料振り込み案内をお送りしますので、それに従って受講料をお支払い下さい。会員価格での受講を希望される方は、受講申込書に会員番号の記載が必要になりますので、御注意下さい。学会への入会手続き中の方は、学会へ提出した入会申込書のコピー等、入会を確認できる資料の提出をお願いします。会員/非会員の受講料の差額は、

一般の方については電子情報通信学会年会費のほぼ3/4に相当し、学生の方については年会費を上まわっております。非会員の方には、この機会に、電子情報通信学会への入会をお勧め致します。入会に関する情報は下記のURLを御参照下さい。

電子情報通信学会入会案内

<http://www.ieice.org/jpn/nyukai/index.html>

受講申込み期間 4月1日(月)~5月31日(金)

先着順です。満員になり次第締め切ります。期日前の申し込みは無効です。

**【受講申し込み方法】** 下記URLからお申し込み下さい。

なお受講申込後1週間以内に事務局からの回答がない場合には事務局へ申込受付確認の連絡をお願い致します。

<http://www.ieice.org/cs/ap/jpn/index.php?ws/ws46>

(上記URLから、まえがきと目次のPDFファイルが確認できます。)

**【問合先】** 受講申込に関して

アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ 第46回  
実行委員会事務局 長尾圭子(東工大大学院電気電子工学専攻安藤研究室気付)

E-mail: workshop@antenna.ee.titech.ac.jp

上記以外

アンテナ・伝搬における設計・解析手法ワークショップ 第46回  
実行委員会総務担当幹事 高橋応明(千葉大)

TEL [043] 290-3498, FAX [043] 290-3327

E-mail: omei@faculty.chiba-u.jp

主催 アンテナ・伝播研究専門委員会

協賛 電磁界理論研究専門委員会, 電気学会; 磁界理論技術委員会, IEEE AP-S Japan Chapter

## ◇ ◇ 第二種研究会発表募集案内 ◇ ◇

### ●アシュアランスシステム研究会

委員長 角田良明(広島市大)

期日 平成25年5月17日(金)

会場 首都大学東京秋葉原キャンパス

講演申込締切 4月26日(金)

講演申込方法

氏名, 所属, 講演題目, 概要(数行), 連絡先(住所, TEL, FAX, E-mail)をE-mailで下記問合せ先・申込先にお送り下さい。追って必要事項をお知らせします。

本研究会は、以下に示すような経緯と目的からディベンダブルコンピューティング研究専門委員会の下に第二種研究会として開催しています。本研究会は新しい技術であるアシュアランスシステムの今後の発展に寄与することを目的とします。多くの方々の御参加をお願い致します。

**研究会の内容**

近年、ネットワークの発展に伴い、自律したシステムが接続されるようになってきました。これらシステムは異種のニーズを持つだけでなく、頻繁にニーズが変化します。このようなニーズの異種性と状況変動に対する適応性を満たし、異種システムを共存させる技術を「アシュアランスシステム技術」と呼びます。

1996年には、日米欧の関係者を中心とし、IEEEにてHigh

Assurance System Engineering 国際会議が設立されました。国内では、1998年以降フォールトトレラントシステム研究会(現ディベンダブルコンピューティング研究会)にて「アシュアランスシステム」が特集され、大学や企業からニーズ、問題点、解決策、実用例などについて多数発表されました。

このような経緯から、アシュアランスシステムに関する先進的な議論と提案の場として2000年にアシュアランスシステム研究会を発足致しました。また、2002年から毎年、Assurance in Distributed Systems and Networks 国際会議が開催されています。そのため、ネットワーク分野へのアシュアランスシステム技術の応用についての研究も進んできました。

本研究会では、制御/情報系システムから、大規模広域システム、超分散システムまで、システム技術、ネットワーク技術、デバイス技術、応用について、設計技術、実装技術、評価技術、先進的な応用例など幅広くアシュアランスシステムに関する諸問題を研究対象項目とします。

**【問合先・申込先】** 幹事

河野英太郎(広島市大)

E-mail: kouno@hiroshima-cu.ac.jp

主催 ディベンダブルコンピューティング研究専門委員会

### ●平成25年度第1回複雑コミュニケーションサイエンス(CCS)研究会

委員長 長谷川幹雄(東京理科大)

情報通信技術は、私たちの生活や社会を支える最重要技術として目覚ましい発展を遂げてきました。それにつれて、大規模化かつ複雑化する情報通信技術の研究開発を支える学術的基盤の適応限界が広い範囲で意識されはじめ、これらの限界を超えた新たな基盤構築の必要性が世界的に認識されるようになってきました。

このような現状を踏まえて、本時限研究専門委員会は、情報通信技術の全ての階層、それを取り巻く情報通信環境、そして神経系や生物システム、更には人間のソーシャルコミュニケーションをも含めた広範な研究対象を扱い、そこにある現実的問題の本質、限界、そしてそれらの背後に横たわる普遍的特質を明らかにするサイエンスの創出を目指しております。

本年度第1回目の研究会では、既存の分野を越えた相互作用を継続的に行っていく場を提供すべく、「相互作用(インタラクション)と情報伝達(コミュニケーション)」をキーワードとし、次世代技術の研究開発とその具体化・実施を目指す「エンジニアリング」(情報通信システム)と、より複雑化、極限化していく技術の本質、限界、普遍的特質の解明を目指す「サイエンス」(数理物理、生体生物、社会経済)の交流を通して、ユニークな議論を行いたいと考えております。

今回は、活発な情報交換と議論の場を目指していますので、これまでの研究のレビュー的な発表から、最新の技術・研究成果の発表まで、いずれも歓迎致します。

期日 平成25年6月3日(月), 4日(火)

会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパスエポック21 (<http://www.ritsumei.ac.jp/mng/cm/sokan/epoch/epoch.html>)

テーマ: 相互作用(インタラクション)と情報伝達(コミュニケーション)及び一般

[基調講演] 普遍現象としての集団同期 蔵本由紀(京大)

[招待講演] 開放ネットワーク系における多様化転移

島田 尚(東大)

[招待講演] 量子ドット間の近接場光相互作用に基づくナノ光伝

送システム 野村 航 (東大)  
〔招待講演〕 情報通信の要素技術の温故知新 田中久陽 (電通大)

発表申込締切 4月26日(金)  
予稿提出締切 5月26日(日)  
参加申込締切 5月26日(日)  
参加費:一般 3,000円(予定,USB講演資料代含む),学生  
無料

【発表形態・発表申込方法】

今回は分野間インタラクションを目的としておりますので,原則口頭発表です.研究のレビュー的な発表から最新の技術・研究成果発表まで,歓迎致します.氏名,所属,連絡先,発表される場合は題目をメールにて下記発表/参加申込・問合せ先まで御連絡下さい.

【発表/参加申込・問合せ先】

坪 泰宏(理研)  
E-mail: yasuhirotsubo@riken.jp

【現地世話人】

徳田 功(立命館大)  
E-mail: isao@fc.ritsumei.ac.jp

◎最新情報は,当研究会のホームページを御覧下さい.

<http://www.ieice.org/ess/ccs/>  
主催 複雑コミュニケーションサイエンス時限研究専門委員会

●第51回機能集積情報システム研究会

委員長 肥川宏臣(関西大)  
本研究会は,ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会の下での第二種研究会として開催します.本研究会は,平成3年に設置された「ウェーハスケール集積システム時限研究専門委員会」以降,複数の時限研究専門委員会の下での研究会を経て現在の研究会に引き継がれました.

近年のLSI製造技術の進歩により,大規模かつ斬新な情報処理機能をシリコンウェーハあるいは大規模ICチップ上に集積・実装する情報システムFIIS(Functional Integrated Information System)の構築技術が注目されています.そこで,本研究会では次に示す幅広い研究分野を対象としています.

まず,ICチップ製造段階では,チップの歩留まり解析,歩留まり向上設計法,レイアウト解析,フォールトトレラント手法などが挙げられます.また,ICチップ上の情報システム構築(SOC: System On Chip)技術としては,IC内部の欠陥検出法(テスト手法やBIST: Build In Self Test)や誤り訂正・回復技術,故障を許容する高並列プロセッサや相互結合網の再構成方式,耐故障再構成可能情報システムの構築技術,動的再構成可能情報システムの構築技術,低消費電力技術などが挙げられます.更には,故障モデルの解析,信頼度解析,性能評価などの理論的解析手法も挙げられます.

本機能集積情報システム(FIIS)研究会は,上述したような技術を,応用分野の枠を超えた高性能・高信頼性・低消費電力のマイクロ情報システム実現のための強固な枠組みであると捉えています.本研究会では上記内容を中心としていますが,それらにとらわれず,各種応用研究を含めた広い研究分野からの研究発表を歓迎致します.

今回の第51回機能集積情報システム研究会を下記要領で一般発表を募集致しますので,多数の申し込みをお待ちしております.  
期日 平成25年7月5日(金)

会場 桐生市市民文化会館(桐生市織姫町2-5)  
一般申込締切 4月8日(月)

発表を希望される方は,論文題目,著者,所属,連絡先を下記幹事までお知らせ下さい.

【申込・問合せ先】

金子晴彦(東工大大学院情報理工学研究所)  
E-mail: hkaneko@fuji.cs.titech.ac.jp  
主催 ディペンダブルコンピューティング研究専門委員会

◎…………… 2013年電子情報通信学会ソサイエティ大会講演募集案内予告 …………… ◎

期日 2013年9月17日(火)~20日(金)  
会場 福岡工業大学(福岡市)

2013年電子情報通信学会ソサイエティ大会は,基礎・境界,通信,エレクトロニクスの3ソサイエティ合同にて行われます.ソサイエティ大会講演募集案内等の詳細は5月号会告,またはホームページにて5月上旬より御覧頂けます.

5月上旬からインターネット講演申込登録受付を行う予定です.  
情報・システムソサイエティ,ヒューマンコミュニケーショングループにつきましては,FIT2013(次ページ)を御覧下さい.

